

## 第 39 回

メキシコに暮らして～メキシコ日本人学校における国際交流～

三上あずさ

(福井市光陽中学校)

平成 30 年 7 月 16 日



メキシコに暮らして～メキシコ日本人学校における国際交流～

早川 みなさま、こんにちは。時間になりましたので、ただいまより第 39 回名田庄多間の会を開催いたします。本日は殺人的に暑い中ようこそ名田庄多間の会にお越しくございました。今日の講師はここに書いてありますように福井市の中学校の教師をしております三上あずささんです。三上さんはメキシコにいかれる前、太平洋の島国や、名前を忘れてしまいましたが、中国の日本人学校で教師として働いたこともおありです。あちこち行っておられます。今日は、「メキシコに暮らして～メキシコ日本人学校における国際交流～」と題して、お話を聞きます。それでは、どうかよろしくお願ひします。

### メキシコってどんな国

三上 ただ今紹介にあずかりました三上です。実は若狭高校にいたこともあります。今は福井市に住んでいます。道すがら懐かしいなあ、変わらぬきれいな景色だなと思いつつやってきました。今日は暑中、私の話を聞きに来ていただき誠にありがとうございます。少しでもメキシコの良いところを皆様にお伝えできればと思っております。私は 2015 年の 4 月から 2016 年の 3 月まで向こうの日本人学校に勤めておりました。皆さま、メキシコって聞かれると、どういうイメージがありますか。まず簡単な概要から説明します。

面積は日本の5.2倍あり、かなり大きな国です。人口は2016年時点で、1億3000万人です。人口構成で言うとかかなり若い国で、どんな人口が増えている国です。民族としては先住民が30パーセント、混血が60パーセント、ヨーロッパ系が残りです。多民族国家です。公用語はスペイン語で、それプラス、先住民の言葉がいくつかあります。歴史としては、九世紀ごろのマヤ文明、15世紀ごろにアステカ文明が栄えました。その後スペインが入ってきて、先住民と混血し、文化的にとっても面白い国です。日本でメキシコのニュースが流れる場合、どうしても治安関係のニュースになってしまいます。最近のニュースで、メキシコについて何か聞かれたことはありませんか。先日は、選挙が行われるので、候補者が40人近く反対勢力に殺されたと報道されていました。私がメキシコに行く直前には、政府に対して批判的な学生が90人余殺害されたというようなこともあり、メキシコに対し怖いイメージがあったのですが、百聞は一見に如かず、行ってみるとイメージとは全然違う国でした。

メキシコは、世界的な観光地です。よくご存知のこのような遺跡がありまして(スライドで、ユカタン半島 チチエンイツァー 生贄の心臓を置いた台等が写される)、実際遺跡には登れるところもあります。今でも埋もれたままの遺跡があります。

一方、首都のメキシコシティには植民地時代の建物がたくさん残っていて、その下を掘るとアステカの遺跡が発掘されたりします。最近日本でも人気が出ているユカタン半島のセノーテ、泉などもたくさんあります。とても風光明媚なところです。

カリブ海といえばカリブリアンブルーが美しい海です。東南アジアの海も美しいですが、あのカリブリアンブルーは世界で一番美しいのではないかと思います。

街並みはとてもカラフルで、色とりどりの家が並んでいたり、街の中心には教会があったり、すばらしい彫刻があったりします。一般家庭の家の中にもこのようなかわいい飾りがつけられていたりしています。



今日会場に、メキシコの民芸品を持ってきましたが、とても彩りが鮮やかです。見ていて飽きません。日本はどうしても地味な色合いになっ

てしまいますが、メキシコに行くところという色使いもあるのだなあと新たな発見があります。

夜は夜でライトアップされて町並みはきれいですし、観光地ということもあり、いろんなところで先住民族のお祭りなどをしています。この写真はメキシカンダンスですが、村の伝説や愛情表現を表しているダンスです。昼はこういった街の中を練り歩く行列を見ることができます。メキシコは訪問する価値のある素晴らしい国です。

## メキシコ人

その国の魅力とさえいば、どうしても人が大きな要素を占めると思うのですが、メキシコ人は我々のイメージにあるように、とてもおおらかで陽気な人たちです。とても愛情表現が豊かで、家族の結びつきが非常に強いです。夜や週末は家族と一緒に過ごすことが多いですが、面白いことに夫婦別姓です。日本の政治家の方で、夫婦別称だと家族の絆が損われるからと夫婦別姓には反対だとおっしゃる方もいますが、メキシコは夫婦別称ですが、家族の中はとても良いです。週末になると家族で買い物に行ったり旅行に行ったりします。ここはどのような場所かわかりますか。(スライドの写真を見せて質問)

(会場から) 海？

海のように見えるけれど温泉なのです。火山の国なのでいたるところに温泉が湧いていて、そこにこのようにプールを作って、温泉プールで家

族で過ごします。ホテルに泊まると高いので、写真にあるように横にテントを張ってそこで楽しむ家庭もあります。私はホテルに泊まったのですが、夜の11時、12時になっても、外の温泉プールでは家族が賑やかに過ごしていました。週末にはこの写真にあるように市場が立ち、そこでみんな買い物したり食事を楽しんだりしています。



日本とメキシコはとても離れている国ですが、意外なところに共通点

があります。例えばこれは死者の日というお祭りなのですが、日本のあ  
る行事ととても似ています。何だと思えますか。

(会場から) お盆？

そうなのです、日本のお盆ととてもよく似ています。死者の日は、10  
月の第一金曜日、土曜日に行われます。1日目が子供の死者の日、2日  
目が大人の死者の日です。死者の魂が戻ってくるということで、死者に  
関連した骸骨が街に飾られたり、置物が置かれたり、夜になるとこのよ  
うに死者のメイキヤップをして街を歩いたりします。犬もこのように衣  
装つけて歩いたりします。楽しいだけでなく、祭壇には亡くなった子供  
の写真や花などが並べられたりして、死者を迎え死者のことを考える  
日です。

話は変わりますが、これは何でしょうか。これも、日本とメキシコの共  
通点の一つだと思うのですが、何でしょうか。このようなマークがいたる  
ところにあります。学校にもありますし公園にもあります。



これは災害時に避難する場所の印です。ここに集まると安全である  
というマークです。日本と同じくメキシコも地震が多い国で、1985年  
には何万人もの人が地震で亡くなりました。それ以来、メキシコでは地  
震に対する対策がとられ、この図にあるような避難場所を設置したり、  
学校では避難訓練を行ったりしてきています。

以上がメキシコの概要です。これ以降は私が勤めていたメキシコ日本人  
学校についてお話ししたいと思います。

### 日本メキシコ学院日本コース

私が勤めていた日本メキシコ学院についてお話ししたいと思います。簡  
単に言うと日本人学校なのですが、ここでは名称が日本メキシコ学院日  
本コースとなっています。通常日本人学校は、北京日本人学校や、デリ  
ー日本人学校などという名前なのですが、ここでは少々違っています。  
私が日本人学校に行くことが決まり、文部科学省から連絡が来たとき、  
書類に日本メキシコ学院日本コースとあり、日本人学校に行く予定だっ  
たにどうしたんだろう、本当に日本人学校なのかなと不思議に思った  
ものでした。

この学校は世界のあちこちにある日本人学校の中でも変わっていました  
て、ひとつの敷地の中にメキシコ人が勉強するメキシココースと、日本人が  
日本のカリキュラムに従い日本語で教育を受ける日本コースが併存する  
世界でも珍しい日本人学校です。1970年代に大統領が、日本人学校

を作りたいという日本の要請に対して、日本とメキシコの架け橋になるような人材を育成できる学校、同じ敷地内に日本とメキシコのふたつのコースがあるような学校にして欲しいと言われたことが発端だそうです。この学校の日本人コースには幼稚園、小学校、中学校があり、メキシココースには幼稚園、小学校、中学校、高等学校まであります。

日本人コースは人数が少なく、大体1クラス20人くらいです。小学生は多いのですが中学生になると数が減っていきます。受験を考えて帰国される家庭が多いようです。逆にメキシココースのほうはほとんど人数が増えており、1学年3クラス程度で、私が帰国する頃は4クラスの学年もありました。メキシコの方が増えて日本人の方が少なく、日本コースは肩身の狭い感じでした。同じ敷地を共有しているので仲良くしているという目的で、行事を一緒に行ったり、交流授業を行ったりしています。この写真は学校の様子です。この写真はなんだか想像がつかまずね、そうです、ハロウィンです。もともとメキシコの行事ではないとは思いますが、英語の授業でハロウィンを祝っています。右側の写真は先ほどお話ししました死者の日の様子です。日本の学校と異なり、自由な雰囲気のある学校で、この日は仮装して登校してよいことになっており、生徒は仮装をして一日過ごします。おうちの方も一生懸命衣装を作ってお楽しみでおられました。

先程お話ししましたように学校の名前は変わっていますが、カリキュラムは日本とほとんど変わっておらず、日本の教科書を使い、45分、7時間授業を行っています。海外在住だと、家と学校の生活だけでどうし

ても社会経験が少なかりがちなので、縦割りや異学年交流を行ったり、校外学習、ボランティアなどの行事を積極的に行っていました。保護者の方がとても教育熱心で、学校の行事に協力的で、頻りに学校に来て読み聞かせをしてくれたりもしました。

日本人学校では給食がありませんので、お弁当あるいはカフェテリアで食べます。その他、日本と異なる点は、休み時間には日本では走ったり運動したりしますが、メキシコでは高地だからか業間の運動は行っておらず、日本の生徒と比べると体力測定の結果はあまり芳しくありませんでした。掃除もあります。代わりにマンテさん呼ばれる掃除をしてくれる人がいます。子供が物をこぼしたりして学校を汚すと、「マンテさん！」と呼んで掃除してもらいます。教員の多くは、自分で汚したものは自分で掃除すべきではないかという意見を持っている人が多いです。日本コースとメキシココースが一緒の敷地にありますので一緒にクラブ活動をしていたり、外国にある学校なので英語教育に力を入れていたり、公用語であるスペイン語を小学校1年生から学習していたりします。

### 学校行事

学校行事も、日本同様、一年を通じてたくさんあります。日本の学校以上あるかもしれません。忙しい学校でした。日本から政治家や大臣がメキシコ訪問の際、学校を表敬訪問されることが多く、それらの準備も数多くありました。

この写真は学習発表会の様子です。これは一年の中でも大きな行事のひとつです。日本だといろんな調べ学習等しますが、メキシコに暮らしているのでメキシコのことを調べたり、または日本らしいものを発表したりにしてします。

これは運動会です。

見ていただくと分かるように、日本人生徒だけでなくメキシコ人の生徒もたくさんいます。さっきの学習会は日本人だけで行っている行事ですが、運動会は日本コースとメキシココースと一緒に日本の運動会を行います。日本の運動会のように、行進したり綱引きをしたりします。これは鯉のぼりを運んでいるところです。右の写真は沖縄のエイサーをやっているところです。ソーラン節と一緒に踊ったりもします。語学に力を入れているので、中学部では日英西弁論大会が行われ、三言語で演説を行ったりします。このように立派な会場ホールが、学校の敷地内にあります。

私は一年目は小学部、二年目は中学部で教鞭をとりました。中学部にはカサ・ダヤボランテアというのがあります。カサはスペイン語で家という意味で、カサ・ダヤは、未婚の母が母子と共に一時期身を寄せる施設のこと、滞在している子どもは10代の少女が多いです。生活が安定するまでここで暮らして、生活が安定したら子供とお母さんが街に出て暮らすようになります。生徒はここへ毎年ボランテアに出かけ、日本の行事を一緒に体験したり、敷地を掃除したりしています。

## 子どもたちの学校外での活動

子どもたちは、朝はバスで登校、1日学校の中において、終了後はバスで帰宅し、その後家族と家で過ごす子供が多いので、どうしても日本人学校に来ている子供たちは社会経験が少ないんですね。治安の面が心配なので、おうちの方は子供だけで外に出すということがあまりないので、家の中で家庭教師に教えてもらったり、または親と一緒にスポーツのクラブに行ったりという生活です。家族以外の人と触れ合う機会がありません。そのため、学校ではいろんな社会経験を積みそうと、学校以外でボランテアの経験をしてもらおうと考えているのです。ここに住んでいる女の子たちに、楽しい時間をすごしてほしいということで、子どもたちが計画し、この写真にあるように、綾取りを教えたり書道をしたりしました。このスライドに写っているのは、中学1年の男の子で右下は中学3年の男の子ですが、日本では中学生になると女の子と手を合わせると恥ずかしく思うのですが、この子供たちは恥ずかしくがらず手を合わせて遊んでいます。やり終えたあとも、「喜んでもらってよかった」という、すごくプラスの感想が多かったです。私がメキシコに来て驚いたのは、家族と過ごす時間が多いせいか、子どもは大変素直ということでした。これは卒業式です。日本式の卒業式とほぼ同じです。



## 異なった文化が同じ敷地の中に

日本コースとメキシココースとが同じ敷地にありますが、校舎は別で、体育館とグラウンドは共有しています。文化が違うふたつのコースが同じ場所を使うことで、良い面も悪い面もあります。悪い面としては、メキシココースのゴミのポイ捨てが多いことです。先ほどお話ししましたように、学校には掃除をしてくださるマンテさんという方がいらっしやるので、メキシココースの子たちは食べ終わったらゴミはそこに置いておくのです。置いておけばマンテさんが掃除して下さるから。掃除をするのはマンテさんの仕事であって自分たちの仕事ではないと思っています。日本コースは

校庭で昼食を食べることが多いのですが、メキシココースの昼食時間は11時で、日本コースが12時半ごろ校庭に行くとゴミが散乱しています。日本コースの小学生の目の前で、メキシココースの中学生や高校生がゴミをポンと置いていくので、子供に悪い影響与えるのではないかとという心配がありました。体育館は両コースが使うので予約するのですが、予約の段階でいやこちらの方が大事だ、いやこっちだ、となかなか譲ってもらえなかつたりしました。

メキシコの人は愛情表現がとても豊かです。メキシココースは高校までありますので、カップルの子が仲良く歩いていたり抱き合っていたりします。愛情表現が豊かなのですが、教師としては、あまり校内で小学生には見せたくないなどと思いました。

## 運動会

次は十一月に行われる運動会についてです。日本コースとメキシココース上と一緒に言う一番大きな行事です。名前も「UNDOKAI」とローマ字書きです。1カ月半くらい前から共に練習して作り上げていきます。運動会を一緒に行うことには、良い点も悪い点もあるのですが、皆様に考えていただきたいと思えます。それらは何でしょうか。日本の行事である運動会をそのままメキシコに持ち込んで行っており、日本のように入場行進し、行う種目も日本でやるような種目です。

メキシコ人にとって、日本のような運動会をする事は楽しいことだと

思われますか。

(会場から) 「きちんと並んだりするのがめんどくさかったり……」

はい、その通りです。メキシコ人にとって、暑い中練習が長いのは苦痛です。日本は何回も何回も入退場の練習をしますが、なぜ楽しむためのスポーツなのにそんなに練習しなければいけないのか、なぜ整列しなければいけないのか理解できません。100m走も整列して入退場するのですが、なぜ並ばなければいけないのか。走りたいなら、来たもの順に走らせればいいのに、なんで決められた順で走らなければならないのか。日常生活では行進することなんかありませんよね。なぜ、同じ歩調で同じように入場しなければいけないのだ、と。でも、実際にやってみると、一緒に踊った踊りが楽しかったり、また、メキシコには運動会のような行事はないので、障害走を走ったりするのは楽しいと思うようです。



一方日本人は運動会を一緒にすることを、どのように感じているでしょうか。まず時間通りに来てくれないことが不満です。1時から始めると決めて、まあ練習時間は45分しかないのですが、日本人の場合は1時前に来て待っているのですが、メキシコ人は来ないのです。大体10分、15分くらい遅れてやってきて、整列させるのに時間がかかって、整列する場所も前もって決めて伝えてあるのに、なぜかそこでもう一度順番を変えたりしていて、全く練習が始まらないのです。45分の練習時間の中で、実際は10分、15分しか練習時間がとれなかったり。また百メートル走の練習の場合、メキシコ人は全力で走らないのです。日本人は練習でも一生懸命走るのですが、でもメキシコ人は走らないのです。おちゃらけた走り方もするのですが、メキシコ人の先生は注意しません。練習の時は日本人が一位、二位だったのに、ところが本番ではメキシコ人が本気で走るので速くて、一位、二位を独占するのです。タイムの速い人から並べて走順を決めたのに、メキシコ人は全力で走っていないので、結果的に自分の実力よりも遅い組に入っているため、全力で走る本番の時はメキシコ人が上位を独占してしまう。許せないなあと感じる日本人生徒が多かったです。メキシコ人の生徒は、並んでいてもしばらくすると違ったところに行つて友達としゃべったりするので、行儀よく待っている日本人生徒はイライラとくるのです。

日本人の生徒としては、日本の行事を教えたるのだから、整列もしっかりして欲しいのだけだと思いが伝わらない。ルールを守ってくれない。例えば、障害走などで内側から走つてはだめだと決まっていたとしても

守ってくれない。メキシコ人としては、なぜ楽しむためのスポーツなのにそんな多くのルールがあるのか、なぜルールを守らなければいけないのか、楽しめばいいんじゃないかと感じるのです。

生徒だけでなく教師としても、カルチャーショックを受けることがあります。一緒に指導しているはずのメキシコ人の教師がいつの間にかいない、どこだと思ったら、指導をやめて椅子に座って休んでいるのです。暑くて疲れるから休みたい、もうそろそろ終りにしようよという雰囲気、こちらとしてはストレスがたまります。

実際の練習では大変なこともあります。運動会終了後の生徒は、日本の行事を教えるのは楽しい、一緒に運動会ができて楽しい、と前向きな感想が多かったです。また、メキシコ人の保護者の方の応援は大変暖かいのです。例えば、単なる入場行進でブラボーと叫んでくれたり、エイサーやソーランなどを踊った時は会場からオートラ・オートラ（もう一回というアンコールの意味）という題声援が上がります。そのような温かい声援を受けると、今までいろいろあったけれど、運動会一緒にやってよかったな、来年もしたいと日本人生徒は思うようです。

### 日本人教師とメキシコ人教師は互いにどう思っているか

同じ敷地内に日本人教師とメキシコ人教師、異なる文化をもった教師が同僚として働いているのですが、互いにどんな印象を持っていると思いますか。

まず、メキシコ人教師が日本人教師に持っている印象としてどんなものがあると思われませんか。

（会場から） 細かすぎる・・・」

はい、その通りです。日本人は、細部にこだわる、こまかい。なんでもかんでも整理しなさい。一緒に行事や授業を行うとき、何でも打合せをして細部まで決めようとする。

また、日本人は挨拶をしないとされています。メキシコ人は会うと必ず挨拶をします。男同士の場合、両手をグーで軽く叩いてタッチをしたり、ハグして肩を叩いたりして、元気かと、必ず一、二分挨拶をします。女の人相手のあいさつでは、お互いのほほを交互に合わせ、ハグし肩を叩き挨拶します。チークキスというのですか、元気が、調子はどうなどとやります。とにかく挨拶に時間をかけ、お互いを気遣います。日本人教師は、知っているメキシコ人の先生に会っても黙礼や「こんにちは」くらいなので、日本人は挨拶をしない、マナーがないと思われるようです。メキシコ人同僚から日本人教師は挨拶ができないと言われているので、気をつけるようにと言われているのですが、なかなかメキシコ人のように大きめに挨拶ができず冷たい日本人と思われることが多いようです。一方、日本人の先生だけでなく日本人はとても仕事熱心である、常に良いものを求めて努力を続けている、と思ってくれている人も多いようです。

それでは今度は日本人教師がメキシコ人の先生にどのような印象を持っていると思われませんか。

（会場から） 「いい加減なやつちゃん、なまけものやな」笑

はい、時間にルーズなのです。こちらは待っているけれども来てくれない。また、たとえば、来週することをメキシコ人同僚と私が打ち合わせをし、細かい事まで決めたのに、次の日突然退職してしまったりするのです。えっ、昨日細かい話をしていたのに、なんで突然退職するの、ひとこと言うてくれればいいのと思うのだけれど。メキシコ人にとっては仕事が変わるのはよくあることで、いい条件のところがあればどんどん仕事を変わっていくので、義理立てすることは全くなく、前もって伝える必要性も感じないようです。こちらとしては驚き困るのですが。しかしそれが、日本人はないおおらかさ、陽気でフレンドリーでいいなあと思います。

職場だけではなく、街で会うメキシコ人も大変優しくて至る所で親切にしてもらい、困っているとき何度も助けてくれました。生徒もメキシコに来て嫌なメキシコ人に会ったことはないと言っているぐらいです。メキシコ人っておおらかでいいなと思いました。

## 交流会

日本コース・メキシココースの生徒は折角校舎を共有しているので、授業や行事で交流し異文化理解を深めていこうとしています。学校全体で交流する運動会や文化祭だけでなく、同じ学年同士で年間を通していろんな交流をしています。

教師主体となつて交流する授業を決め、生徒と共に準備を進めていきます。この左の写真は一緒に体育をしているところです。真ん中の写

真は七夕交流の様子です。教師としてはやはりいろんな思いがあり交流を企画するのですが、教師の思いと生徒のそれとは少しずれていたり相反してたりします。

なぜ教師は交流したがると思いますか。

(会場から) 「お互いの違いを認め合う、人間違うものどうしであつても」

そうですね、違うのを認めあうことは大事ですね。駐在員やその家族は外国には住んでいても、現地のメキシコ人の人たちと触れ合う機会がありません。メキシコに住んでいても、私も同じなのですが、学校の友達は日本人だし、メキシコ人の友達がたくさんいるわけでもない、メキシコのことをそれほど知っているわけではないので、学校としては生徒に異文化に触れ異文化理解を深めてほしい。交流はそのためのよい機会なので定期的に交流しています。交流では日本のことを教えたり、日本の行事を一緒にしたりすることが多いのですが、それらを通して日本について再発見できることも多いのです。例えば、七夕について交流するときは、七夕について十分知らなければ伝えられないので、七夕について調べ直したりします。交流はスペイン語や英語で行うので、語学を習得する良い機会や動機付けにもなります。正直スペイン語が分からない教員には負担ですが、生徒の変容をみるとやつてよかったと思います。

交流について、生徒はどう思っているでしょうか。生徒は、正直、とても嫌なのです。まず言葉が通じない。メキシココースは週に一回日本語の授業があるので片言くらいしか話せないのです。スペイン語か英語でやるこ

とになります。日本の生徒は恥ずかしがってなかなかしゃべりません。それに、圧倒的に日本人の方が少数で、日本人一人に対してメキシコ人が三、四人になることが多く、どうしても小さくなってしまいます。そのため、交流するよと言っていると、えっ、またするのですか、嫌だな、と言う生徒が多いです。でも終わると、なんとか伝わった、やつてよかった、自分たちが計画した活動を楽しんでくれた、うまく伝わらなかったからもつと英語や西語を勉強する、次は頑張りたい、と言う前向きな意見を言う生徒が多いです。だから教員もがんばって交流会をやるうと思えます。

これは体育でサッカーと一緒にしているところです。メキシコのサッカーのレベルは高く、上手な生徒が多いです。しかしサッカーは、個人プレーでなくてチームプレーだから、一緒に活動の目標を決めてプレーしようという活動している所です。右上の写真はメキシコダンスといって日本でいうと盆踊りのようなものです。盆踊りよりはかなり動きが早く激しいですが、それを一緒にやっているところです。これは、メキシコの生徒からメキシコの踊りを教えてもらっているところです。右下の写真は日本の行事である七夕を教えているところです。

生徒は交流について後ろ向きなので、交流を円滑に行うために教師としていろんな手立てを考えます。交流がうまくいくためにどういう手立てがあると思われませんか。

(会場から) 「先生と生徒がやる前に一緒に考えてどうしたらうまくいくかを考えて進めていけば……」

そうですね、日本人が音頭をとってやつていく活動では、全体の流れ

を教師と生徒が細かく話し合い、リハーサルなどとして臨みました。いろんな反応を予測したり、お互いの説明についてアドバイスをしあったりして、交流がうまくいくようにしました。日本人とメキシコ人が同い年の場合よりは、メキシコの方が年上の方がうまくいきました。温かい目で見てくれているからでしょうか。また、手や体を使うような活動、例えば体育や踊りなどのような、交流がうまくいきました。

(交流しているところをビデオで見る)

(ビデオを見ている時の説明)

最初嫌がっていた生徒が、交流後には、次の交流はいつですかと聞いてきたりと変わっていきます。中学部になると、このようなアカデミックな交流もやります。卒業の時期は違うのですが、卒業式にはお互いの歌を披露し合ったりし、言葉を贈ったりしています。

(ビデオ終わる)

この写真はクリスマスのツリーをポインセチアで作ったものです。日本目本市学院は、随所随所にメキシコを感じる事ができるとても楽しい学校でした。

## コース併設を活用

せっかく両コースが同じ敷地を共有しているからと、メキシココースと日本コースの教員同士が同じ研修を受けたり、安全対策ということと同じ消火訓練をしたり、クラブを一緒に持つたりしました。私はメキシコ

ダンスのクラブの顧問をしましたが、ダンスは全くやったことがなかったの  
で、見よう見まねでやってみたり、または教えてもらったりと、コースが  
併設されているからこそできた面白い経験がたくさんありました。

日本人学校の教員には、日本文化を現地に伝える任務もあります。  
太鼓は全然叩いたことがなかったのですが、年に3回日墨会館(「ぼく」  
はメキシコの意味)で日本文化紹介と称して、太鼓を披露しました。週末  
や放課後に練習しただけの付け焼刃的な演奏ですが、それを披露する  
と、これがメキシコの人の反応がとても暖かいのです。正直、上手ではな  
いのですが、終わるとオートラ、オートラと声援をかけてくれたり、中  
には録画をしている人もいて、なんとメキシコ人優しいのだろうと思っ  
ました。

右下の写真は関西学院大学がアメフトの親善試合にいられたときの  
様子ですが、その時オリンピックスタジアムで試合をするので前座として  
太鼓を披露してほしいと言われて、オリンピックスタジアムで太鼓を披露  
しました。

メキシコは国の中の多様性だけでなく、学校自体も日本とメキシコが  
混在する多様で面白いところでした。やはり同じ集団の中にいると安心  
していただけるのですが、違うものが混じるからこそここでできる、楽しい  
いろんな経験がメキシコではあったと思います。これからの時代を担う人  
たちが、国内外多様な経験をしてほしいと思います。以上で終わります。  
(拍手)

## 講演後の質疑応答 なぜメキシコに

早川 世界にはいろんな国があるのにそもそもなぜメキシコに行ったので  
すか。どういう手続きをすると2年も向こうにおられるのか、行くまで  
にしなければいけない手続き等について聞かせてください。

三上 私県採用の教員で、職場に毎年、日本人学校で教えたい人は希望  
を出してくださいと。それに応募して福井で面接を受けて、それが通る  
と、大阪で文科省の人の面接を受けます。それらの面接に通ると、2年  
間派遣されることになります。メキシコを選んだわけではなく、私は  
言葉が通じる所が良かったので、英語圏、中国語圏、仏語圏と書きまし  
た。通常はあまり希望は書かないようです。文科省の人から「あなた  
希望以外の国には行かないのですか」と言われました。「そういうわ  
けではなく、言葉が多少でも通じると仕事をスムーズに行えると思っ  
きました。ですが、どこでも行きます。」と答えたらメキシコになりまし  
た。

## 運動会、挨拶

参加者 A 先程の話で運動会の際になぜ行進しなければいけないと言  
われたと聞きましたが、オリンピックの時などでも行進しているし、運動  
会も学校の中のオリンピックのようなものだと思うのですが。

三上 やはりオリンピックほどの大きな舞台になると意識も違ってくるのではないかと思うのです。運動会は普段の学校生活の一部だからではないかと思います。

参加者A 僕なら、オリンピックで行進するんだし行進するのも当たり前だなと思うけれど。しかし、知らないうちに行進もなくなってしまうけれど。

三上 私も小学生の時は1周行進しましたが、最近はそのにかける時間でもったいないということで、校庭後方から走って行くだけのように日本でもだいぶ簡素化されているようですね。

参加者A 僕、気になったのは、いつも運動会の時は1等賞になると鉛筆などもらっていたのですが、向こうでもそうだったのですか。

三上 人数が多すぎるのでそれはなかったです。

参加者A 愛情表現が豊かだったと言われましたが、例えばこの人すかんわ(「いやだわ」と思ったときの表現も豊かなのですか(笑))。

三上 それはなかったですね。だから、けっこうプラス思考でないかと思えます。

参加者A よく西部劇などを見ていると初めて顔を合わせた時、気があうとハグしたりしているけれど。

三上 そこまでするにはちよつと時間がかかるかもしれないけれど、私が外国人ということであつたかい目で見てくれたのではないかと思います。以前中国にも住んでいた時、中国の人もあたたかいのですが、私が中国語で話すと、「あなたの言っていることはわからないよ」と面前で言われ傷つ

いたこともありました。しかし、メキシコの人には、どんなたくそなスペイン語でもうんうんと言つて聞いてくれるのです。ああいいなと思いました。

参加者B 向こうの宗教は？

三上 カトリックです。ほぼ100%近くがカトリックで、金曜日の夕方になるとお祈りに行く人が多いので、交通渋滞が起きたり、土日は家族で教会に行くことが多いです。

### ゴミ、掃除

参加者C 学校ではゴミを散らかして汚いという話でしたが、家ではどうなんでしょうね。

三上 綺麗だと思います。

参加者C 学校では掃除をしてくれる人がいるから汚い、ということですか。

三上 メキシコは階級社会です。メキシコ学院は豊かな階層の人が来ている学校で、それでなおさら掃除は自分の仕事でないと思つているようです。

参加者C 全部の学校がそういうことではなくてランクがあるということなのですか。

三上 そうだと思います。また、日本人ほどゴミを拾うと言う意識はないようです。そういうことは学校でしつけることではないということだと思います。

## 治安、日本コースの子どもたち

参加者D メキシコはどちらにいらつしやつたのですか。

三上 首都のメキシコシティです。

参加者D 治安とかは？

三上 治安は日本で聞いたニュースで判断すると怖いと思いましたが、実際に住んでみるとそうではなかったです。ただやはり、公共交通機関は使つてはダメだったのです。バスも地下鉄もダメで、移動する時は自家用車かタクシーでと言われており、それは治安上の問題らしいです。

参加者D レムサには行ったことがあるのですが、なんか、道なんかはすごいガタガタで、掘つ立て小屋のようなところに住んでいらつしやつて、アメリカから国境越えていくと道がすごいガタガタで、全く違う感じで怖い感じがしたのですが。メキシコシティではそういう感じではないのですか。

三上 はい、この地区は危ないから行かない方がよいというのはもちろんありますし、そういう地区の近くでは落書きも多く、怖いから近づかないでおこうと思いました。しかし首都ですので、そこまでひどいということとはなかったです。学校の校長が夜の12時ごろだったのですが、強盗にあつて頭を殴られたということがありました。勤務した学校は高級住宅地にあるのですが、迎えに来た保護者が車を奪われたり、校内にあつたATMが強盗に壊された、その警備のために翌週から犬を飼い始めたなどということがありました。私は一度も危ない目には合いませんでした

が、治安としてはそれほどいい国とは言えないでしょう。

参加者E 先生が務められていたメキシコ学院にはけっこう裕福な家庭の子がきているとお話でしたが、日本人学校の子達はこういう家庭の子供たちだったのですか。

三上 八割は駐在員のお子さんで、メキシコには車のメーカーが多く工場がメキシコシティの近くにあつたので車メーカー駐在員のお子さん、その他ヤクルトの駐在員のお子さんも多かつたです。まるちゃんラーメンも文化のひとつになっていて、いたるところにありました。駐在員の家庭は裕福な暮らしをしているようでした。あとは現地の方と結婚した日本人のお子さん。学費を出したり、ママ友と一緒にの食事は高級レストランが多いので大変だとおつしやつていました。

## カリキュラム、学校運営費など

参加者E カリキュラムのことですが、日本の学校と日本コースとのカリキュラムは違うのですか。

三上 いっしょです。それプラス、スペイン語と英語があります。

参加者E それらの授業のほかにはさつきお話しになつた行事が入ってくるのですか。

三上 そうです。

参加者F 日本人学校の実態を何も知らないのでお聞きしますが、所管は文科省で子供たちは日本の義務教育過程を履修するのですね。メキ

シノコースもあるということですが、それはメキシコの子供たちがメキシコの教育過程にに応じてやっているのですね。それで、体育館とか校庭を共同で使って、当然学校の運営もあるわけで、その金銭的な割合というか、日本政府とメキシコ政府がどのように按分しているのか。その辺はどうなっているのですか。

三上 私はそこまで詳しくはないのですが、文科省の負担は人件費だけです。日本から派遣されている教員の人件費。施設全体の運営費などは、授業費などから。メキシココースの方が人数が多いので向こうの方がお金を持っているらしいです。共同で事務部会というのがあり、そこで予算配分を決めて使うらしいです。途中でクビになった事務長がいて、どうも使い込んだらしいとか。メキシココースの方が生徒数が圧倒的に多いのに、敷地面積はそれほどでもないのは、昔は日本コースの方が生徒が多かったようです。不公平なので日本コース方がもとお金を出せ、と言われていると聞いたことがあります。教員は関わっていませんが、事務員の方と校長が毎週のように会議を開いていて大変そうでした。

参加者 F 最初の建物の建設費はメキシコ政府が出してくれたのですか。  
三上 共同だったと思います。

## メキシコの音楽

参加者 A 向こうの音楽なんかは聞かれました。

三上 はい。

参加者 A 日本で演歌など聞かれますか。

三上 親が聞いているのを聞いたことはあります。

参加者 A 演歌というジャンルは日本においても比較的新しいジャンルらしいのですが、メキシコの音楽が演歌に似ているというか、そんな気がするのですが。時代劇にも合うような。そんな音楽を聞いたことありますか？

三上 哀愁を帯びている音楽が多いなあと思いました。

参加者 A 陽気なだけでなく、そういった哀愁のあるのが……

三上 表面は陽気ですが歴史を振り返ると、抑圧されている歴史があると思います。表と裏ではないですが、そういう哀愁を帯びた音楽があるのでないかと思います。メキシコテイーは豊かで、白人系の人が多いのですが、地方に行くと全然違います。先住民系の母親が赤ちゃんを抱いて、物売りをしている姿を頻繁に見かけました。

参加者 A 何年か前に北海道に行った帰りにフリーの中でメキシコかぶれをしたおっさんがいて放浪しているらしいのですが、ギター1本で何かを奏でていたので、新潟の音楽かと聞くと、メキシコの音楽だと。

三上 メキシコは面積が大きく多民族国家なので、どこかの民族の音楽かもしれません。

## なぜ外国の日本人学校の教師になろうと

参加者 G 先生はなぜ外国の日本人学校の教師になろうと申し込まれ

たんですか。それと帰って来られてから中学生を教えておられるということですが、生徒さんに向こうでの経験がうまく伝わっているというようなこと、何かありますか。

三上 まずなぜ行ったかですが、異なるものに興味があったからです。私20代の時に海外青年協力隊で太平洋州のバヌアツに行ったのですが、その時は現地の学校に日本人は私1人だけでした。言葉や文化の面で苦労はありましたが、日本では出会えないような人と出会い、話をし、日本ではできない体験をして、貴重な経験になっています。その後、中国ではインターナショナルスクールに勤めました。そこは主に外国人駐在員の子弟が勉強する学校でした。日本の学校とは異なる学校の仕組みや教育方法を知れ、貴重な経験でした。今度は日本人学校はどんなのか興味を持ち、申し込みました。また日本に暮らし何年か経つと、外国で暮らしてみたくなるのも理由の一つです。刺激が欲しくて出て行きたくなる。今、中学校は忙しくて、正直、外国のことについて生徒にあまり話す機会がないのが残念です。小学校で勤めていた時は、写真や物を見せたりして外国のことについて話しました。中学校は行事が多くカリキュラムを終えるのにも時間ギリギリなので、話をする機会があまりありません。授業の合間にちよつと話す生徒はへーといった感じで、なんでメキシコなのとあまり興味がないみたいです。

## 日本とメキシコの教育環境

参加者H 2年間向こうに居られて日本の子供たちの環境と向こうの環境と、やはり日本の方がいいなと思われたのか、いやいやそうではないのんびりした教育の方が良いと思われたのか。テレビなんか見ると受験戦争とか何とか厳しそうですが、メキシコに居られて感じられたことを聞かせてほしいと思います。

三上 どっちがいいとは言えません、どちらもいいところがあります。カリキュラム自体は一緒なので、学習内容は同じなのですが、日本では学校外に出て行けるし出て行きやすい。学校外での行事もあり、そこで勉強する機会もありがたいなと思います。メキシコだとそれが非常に難しい。治安や言葉の問題があり、閉ざされたところで勉強している。子供にとっではかわいそうだなと思います。学校以外ですけれど、メキシコに暮らす日本人社会は狭いですね。それがかわいそうだと思います。日本にいればいろんなことが経験できるし、いろんなところに出て行けるのはいいなと思います。私自身もメキシコはすごく楽しくていい国だと思つて暮らしていましたが、日本に帰つてきて、やはり日本もいい国だなと思いました。

## 死者の日、運動会

早川 死者の日というのがあつて日本のお盆に近い、という話がありました。日本の場合、あのような骸骨はなく魂が帰ってくるということになっていますが、クリスチャンの国にしては、あのようなゾンビのような

がゾロゾロでくるのは奇妙な感じがしました。信仰というより土俗的な慣習から来ているのではないかと。あれは向こうの人にとってはうれしい日なのか不気味な日なのか、どんな日なのか。

**三上** いま言われたことがすべてミックスしていると思います。カトリックというよりは、土俗的なものが混ざっていると思います。子どもたちはすごく楽しんでます。祭壇を作ったり遊びに行ったり、学校も休みになり、町は死者の日の飾りつけでいっぱいです。大人の人は身内に亡くなった人がいなければ楽しんでいますが、最近なくなった家族がいる方はさみしそうです。

**早川** あれはああいいう衣装を着けて行列するのですか。骸骨の格好をして。

**三上** あれは自分たちが楽しむために行くだけで、仮装してお化粧して歩いてもよいという日です。だから、厳かというよりは賑やかです。街にああいいうハリボテの飾り物ができて、それを家族で見に行ったりするので。

**早川** 運動会のことですが、ローマ字で運動会と書いてあるという話もありましたが、あれは最初メキシコの人がやってほしいと頼んだのでやり始めたのか、それとも日本の人がこれはいい行事だからやったほうがいいよと始めたのかどちらなのですか。こんな面倒な事はないほうがいいと思うの人が思ってるというふうには最初は聞いたのですが。きっかけはどうして始まったのですか。

**三上** ちよつとわからないです。ただ、もう毎年やっているから今年もや

るという流れです。メキシコ人の保護者の方はとても楽しみなようです。生徒は練習があるから嫌だけれど。運動会は日曜日開催ですが、時間内までには親を入れないのです。なぜかと言うと、席をいっぱいとしてそこに食べ物いっぱい持ち込んで、パーティーみたいになるからです。そこまでのスペースがないので、時間までには親を入れず、入場整理のようなことをして、時間が来たら開門します。「走らないでください」と言うのですが、みんな椅子や机を持って一気に駆け込んできます。自分の子どもがよく見える場所を家族で占拠して、子どもの様子を見ながらタコスなどを食べたりして楽しめます。

**参加者 A** それに関しては日本といつしよと違うかな。僕なんか子どもの頃、親がお弁当を作っている間、菓子を巻いて、それを持って行って、場所を占拠して、お昼になったそこで食べたりして。

**三上** いつしよですね(笑)。私、日本の小学生に、運動会楽しもうね、と言ったら、「うーん」って。何回も整列したり練習したりするのがいや、と言っている子がいたので。だから、先生の顔をうかがってあまり言わないだけで、実際、日本の生徒もいやなのかもしれませんね。それをメキシコの子は直接言うのかもしれない。

**参加者 A** いやなことはいやとちゃんと言うのがいいね。

**三上** そうですね。

**早川** 向こうはいやなことはいやといえる雰囲気だけれど、こちらはいやなことをいやという嫌がられるからいやと、こんなこんがらかったことになっている(笑)。

## 道徳教育、校則

参加者Ⅰ 道徳教育はどうされているのですか。

三上 私の前任者は、クラスの大多数がメキシコ人とのハーフの子弟です。イン語話者だったので交流授業でやられたのですが、わたしのクラスは日本人駐在員の子弟がほとんどだったので、交流で道徳授業はしませんでした。言葉の壁がありむずかしいと思います。前任者の方は、国によって違う価値があるかもしれないけれど、共通する倫理観はあるのじゃないかと、それを道徳で行ったようです。

参加者Ⅰ 日本で育った子はどうしても日本の物差しで考えると難しいのですが、相手の国は違いますよね。それで相手のことを考えるのは難しいのではないかと思います。どういうことをされたのでしょうか。

三上 友情についてやっていらつしやったようで、それもどっちが正しいのではなくて、こういう考え方もあるねという終わり方だったようです。

参加者Ⅰ 日本とメキシコの文化が違うのは当たり前だと思っておりますが、生徒の校則なんかも日本の生徒とメキシコの生徒では違ったりするのですか。

三上 はい、日本コースは、シャツは中に入れろとか、携帯はだめとか、日本とほぼ同じ校則だったのですが、メキシココースは同じ制服を着ているけれど着崩していても全く言われなし、携帯も普通に使っていたり。

日本コースは給食時間以外お菓子を食べたらだめですが、メキシココースはスナックを食べたりすることができ。だから、日本コースの子たちは

同じところにいるのに苦しいとか、向こうはなんだか楽しそうだな、楽しなあと感じることがあるようでした。

早川 それではどうも長いことありがとうございます。拍手でお礼申し上げます(大きな拍手)。

### 一・参加者(14名)

今川真里、大下新一、上中きみ子、木戸口武夫、杉本尚実、高橋楓  
時岡博嗣、中野英二、西脇一美、早川博信、早川真理子、村上正純  
山口孝志、吉田輪佳奈

### 二・発言者(10名)

A(60代、男性)、B(40代、女性)、C(60代、男性)、D(40代、女性)  
E(60代、女性)、F(60代、男性)、G(60代、男性)、H(60代、男性)  
I(50代、女性)、J(20代、女性)